

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I 理念に基づく運営</b>				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着に向けて、日頃の挨拶を大切にし、夏祭りを開催してホームへの理解を深めています。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定例のミーティング、ケア会議等で話し合いが出来るように努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には入所時の説明の中で、又面会の時にその都度説明するように努めている、又地域に対しては地域にボランティアグループがあり、年1,2回参加する機会があり、そういう場を借り理解していただけるよう努めている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	仕事中、通勤の行き帰り近隣の方と会う機会があり気軽に挨拶、会話する事が出来ている(農家の方から、野菜、お花、果物などを頂くこともある)自治会に加入しており、回覧板の受け渡しでのお付き合いがある、地区の子供会、婦人会の主催する演芸会にも案内を受け参加している		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りを通して地域との交流に努力しています。自治会に加入しながら老人会、行事等に参加しています。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者について役立つ話合いに取り組んでおりません。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者・職員共にいつも意識をもって改善に取り組んでいます。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はいまだ開催しておりません。地域の方と話し合いをしても、私がなぜ運営会議に参加しないといけないのかと言う意見が多い。他のホームの意見を聞きながら、前向きに取り組んでいます。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者が市の担当者と意見交換を行って、サービス向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度・地域権利擁護事業について必要な人がいない為、話し合いをする機会はありません。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーテング、ケア会議、研修会、又自己学習の中で学び施設の中で虐待行為はあってはならないこととしてサービスに努めている		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前少なくとも1度はご本人、ご家族の方とお会いしてご本人の状況等をお聞きしている、又契約時の説明もご本人、ご家族の方の不安、疑問点を聞き、十分に理解、納得してもらえる様に努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口の見やすい所にご意見、苦情受付箱を設置している、又入所時の説明の中で、又日々の生活をとうして意見、苦情、不満が気軽に言ってもらえるよう信頼関係を大切にしている		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶり、健康状態については面会時、又変化時は速やかに報告、連絡している、個人の預かり金出納簿の写しを毎月家族に届けて報告している、必要によっては電話で報告する事がある		ホーム便りを検討していたが実行できなかった、再度発行を検討したい
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口の見やすい所にご意見、苦情受け付け箱を設置しているが今までに1度も利用していただく事がなかった		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて職員から意見、提案を聞きながら実施している、又意見、要望がある時はその都度提案を聞き検討出来る事は、実施している		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	要望には勤務調整を行い実施している、行事、催し物への参加は休日出勤をしている		利用者の方に十分なサービスが出来るよう常に努力をしているが現在では職員の増員までの余裕が無い
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者、職員の意見は出来るだけ取り入れるようにしている、働きやすい環境を作って今後もチームワークを大切にしていきたい		
	5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員さんの意見を尊重しながら、外部研修には積極的に参加させる様に考えて実行している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームの行事に対して年2回参加しました。訪問する事によって何かと勉強になる事が多くあると思います。今後共積極的に参加していきたいと思っています。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者・職員さんとの会話では、出来るだけ明るく接する様に心掛けています。年2回の食事会を実施しています。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者・職員の努力や協力については感謝しています。経営の事を考えながら一層努力していきたいと考えています。		
	<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者本人が困っている事などは、早目に解決する様に努めて実施しています。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の方が面会に来た時などに話し合う機会をもうけて、何かあった時など解決していく様にしています。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と相談しながら計画をたて、他のサービス利用も含めた対応の支援を行っています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に入院先に面接に行き担当看護師、担当ケアマネジャ、また家族からの情報を得、その情報を基に入所後は暫定プランで経過を観察しながらサービスの提供を行っている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	レクリエーション、食事の準備、後片付け、お互いの家族の話、TVの報道などで喜び悲しみを共有している		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	夏祭り、敬老会、クリスマス会等に参加して頂き、外出、外泊等をとうして本人、家族との関係がより良く築いていけるよう努めている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族が遠方の方には手紙で近況を伝え、近くの家族いは面会時出来事を伝えながら理解を得ている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅までのドライブ、冠婚葬祭等に出席できるように付き添い、自宅に外出、外泊を勧めたり、3年前から初詣を地域の神社に欠かさず参拝している		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	各居室にテレビを置かず娯楽室、食堂で一緒に見、毎日の食事も利用者職員が同じ場所で同じ物を一緒にいただき、又レクリエーション等を通じて関わりあえるように努めている		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院中は定期的にお見舞いに行き関係者から病状、経過の情報を得るようにしている、又家族とお会いできた時はご本人の健康、近況の情報を得るように努めている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員はご利用者と一緒にテレビを見ながらさりげなく行きたい所や食べたいものなどを聞くようにしているドライブ中景色の良い所では思いをよく話され、ゆったりした時間を持つことでお1人お1人の思いや意向を把握するようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当ケアマネジャ、医療関係者からの情報把握に努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタル測定、食事、排泄、睡眠状態、精神面の観察、記録、申し送り等を通じて把握するように努めている		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成する事前に御本人、家族に介護に対しての意向、を十分にお聞きし、又地域での行事等にも参加できるよう話し合いながら取り組んでいる		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3～6ヶ月程度で行っている、全利用者については月1回の定期的な見直しを行い、新たな気づき、変化が合った場合はご利用者、ご家族に状態を説明するなどして随時見直しを行っている		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、介護日誌、ヒヤリハット、申し送りなどで見直しに生かすようにしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者、ご家族の希望に応じて自宅にお連れしたり通院介助も行っている、入院されると職員がお見舞いに行き、状態観察を行い、Dr、看護師から情報収集して早期退院に向けての働きかけを行なっている、日頃より健康管理、異常の早期発見、対応に努めている		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の指導の基に防災訓練、非難誘導訓練、火災時の通報訓練を行っている、又地域の子供会、婦人部の開催するミニ演芸会、保育園、児童の演奏会、お遊戯会の案内を受け見学に参加、家族にも声掛け参加してもらう		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の居宅介護支援事業者連絡協議会研修会に参加、他のケアマネジャー、事業所の方との意見交換、情報収集を行っているが他のサービスを利用したり受けたりすることはしていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ご利用者の件で地域包括センターに相談、ご指導を仰いだ事がある		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主担当である医療機関に受診し受診の結果は状況により速やかに家族に報告している、職員が通院介助を行っている、場合によっては家族に依頼することもある、今年度は保険センターを通して健康診断を一部の方に受ける事が出来た、協力病院での定期検査も必要に応じて受ける事が出来た		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院、かかりつけ医院で受診、診察を受けている、主治医の指示を仰いでいる		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力病院の看護師、施設の看護師の方たちと交流があり必要に応じて相談話し合いをしている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時はできるだけお見舞いに行き馴染みの関係を欠かさないように勤めている、主治医、看護師ともその都度会い状態把握に努めている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、終末期のあり方について、あらためて話し合う事が出来なかった、家族より「どうかあったら病院に連れて行ってください」といわれる事が殆どで、それ以上の事が出来なかった、再度関係者を含めた話し合いの場を作るように努力したい		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	定期的な受診、検査、状態の変化時の随時診察がスムーズできるよう医療関係者との信頼関係が確立出来るように努めている		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	包括支援センター、医療関係者、居宅介護支援専門員の方達との情報交換、話し合いを行い対応している		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ご利用者が馴染まれているための「ちゃん」付けでお呼びすることもあるが目上の人に対する尊敬の念を持って接している、誘導、介助時自尊心、羞恥心に配慮してさりげなく行うようにしている、面会時には面会簿ではなく個別の用紙に記		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々生活の中で声掛けを多く会話によって、より多くのご本人の思い、希望を引き出すようにしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望される外出や買い物についてはできる限り対応している、希望を言われない方には散歩など促し外の景色を眺めることで気持ち安らぐのではないかと働きかけている、また趣味を楽しんでもらう為に材料を準備し、希望に添えるように支		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	定期的に又希望時に行きつけの美容室に付き添っている、買い物もご本人と一緒に好きの物が(衣類、化粧品、靴など)買えるよう努めている		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者ごとのご要望を相談したり、野菜の皮むき、配膳、後片付け、テーブル拭きなど、お1人お1人のお力を発揮したお手伝いをいただいている、食事中は職員も一緒にテーブルを囲み一緒に食事をするようにしている、菜園があり新鮮な野菜を獲り楽しみながら食事を提供している		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好調査を基にして、年間の行事に合わせた地域ならではの行事食をしたり、毎日同じおやつ、飲み物にならないようご本人の嗜好も考えながら支援している		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定期的な声掛け、お1人お1人の排泄パターンを把握して排泄援助に努めている		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応週2回と入浴日を決めているが希望に応じた入浴が出来るようにしている、入浴する順番で気まずい雰囲気になり、くじ引きをして公平に楽しくお風呂が入れるように努めている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	基本情報を基に衣類、寝具等の定期的な交換、洗濯、日光浴など衛生、清潔面の支援をし、昼間の適度の運動により夜間の安眠への支援をしている、又寝具類はご本人が使用していたものを在宅より持ってきて頂いている		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の得意な方には野菜の皮むきや洗濯物たたみなどを役割として、また草取りが上手い方には庭の草取りを手伝ってもらい、その方の生活歴に応じた役割を発揮していただいている、歌が好きな方にはカラオケを楽しんでもらい、折り紙、塗り絵が得意な方は個々人で楽しんでいただいている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者により能力のある方には家族の承諾を得て小遣い程度のお金は管理していただいている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	在宅での生活習慣を日々会話の中で、又家族からの情報から得ようと努めている、ドライブ、買い物、美容室に行くなど外出も限られているが嫁ぎ先の娘さんの家、以前住んでいた所などにドライブ兼ねて行く、などの支援をしている		今後も個別の外出支援が出来るよう努力したい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力で自宅へ外出、ご利用者の身内の法要などに家族とともに出席できるように支援している		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけることは随時支援している、又年賀状も毎年家族宛に出していただくよう実施している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	自室に案内し椅子を用意、お茶を出し落ち着いてゆっくりお話ができるよう雰囲気作りに努めている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などで学んだ事を再認識して拘束をしない介護に取り組んでいる		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は朝6時から7時まで自由に出入できるように開放している、自由に出入り出来るが為の安全確保の為に職員同士が声を掛け合い、作業中は常に所在を確認し合い見守っている、近所の方にも利用者1人での外出の連絡の協力をお		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に入浴、排泄、食事中心配り、心配りをもってプライバシーに配慮しながら安全に生活して頂けるよう支援している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	最初に危険物の手持ちについて説明するが、お一人お一人の管理能力によって、工作用のハサミ、縫い物用の針等各利用者の方の能力に応じて所持されている、保管場所、数の確認おこない安全を第一に取り組んでいる		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止のためのマニュアルを基本に各研修、施設内研修、自己学習により個々のご利用者の状態により事故防止に取り組んでいる		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	お1人お1人の病状、既往症を把握し学習会、ケア会議の中で対応できるよう学習に努めている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は日勤帯を想定して行った、この春、全館にスプリンクラー、火災報知機設置、消防署より、通報訓練、初期消火等の指導をうける		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入所時の説明で理解して頂き、家庭的な雰囲気ですらして頂く事を大切にしている		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	病状、既往症及び毎日の体調を確認する為の健康チェック、食事、排泄、睡眠等のチェック、表情の変化等で異常の早期発見、情報を共有し医療機関等に速やかに連絡できるよう早期対応に努めている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お1人お1人の病名、服薬把握に努めている、処方時の文献を確認して職員が1人で与薬するのではなく複数の職員の確認で服薬介助している		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲水をすすめ、繊維のある食材での調理の工夫、運動を促し自然排便が出来るように取り組んでいる		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアは毎回全員までには行かないが食後のうがいを促している、毎日1回は夕食後義歯洗浄し夜間消毒をおこなっている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂食状況の観察、摂食量のチェック、の確認を行いながら、また食事以外に夜間の飲水が出来るようにペットボトルにお茶を準備するなどして支援している、年に1、2回の嗜好調査を行い、1度他の施設の栄養士さんにカロリー計算を依		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修、自己学習、マニュアル等を参考にそうゆう状況に遭遇した場合は速やかに対応できるように日頃から意識を持ち介護にあたっている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	清潔な台所での調理をすることを基本に、まな板、包丁、ふきんの消毒を毎日実行している、食器、調理器具は乾燥機にかける、冷蔵庫については定期的に又随時清掃して衛生管理に努めている、食材も新鮮、安全な物を使用するように		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設自体が民家を改造、増築、玄関側は庭木などがあり和風的な落ち着きがあるのではないかと思うが施設入口が狭く車の出入りに困難をきたす事がある		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や、テーブルに季節の野花を活け季節感を感じてもらえるように心がけている、家具類はご本人が出し入れしやすいような物を置くように心掛け、ウッドデッキでのお茶会は(おやつ時など)皆様に喜ばれている、入浴はゆっくり入っていたためにお1人ずつ入っていただいている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室、食堂にテレビを設置、好みの番組を見たり、お互いの居室に2、3人集まり外の景色を眺め世間話をされている、このような雰囲気は今後も継続出来るように支援したい		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	殆どが自宅で使い馴染んだ品物を持ってきていただいている、居室にも家族の写真を貼ったり子供が作ったお人形を飾ったり、ご家族の方にも協力を頂いている		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計、湿度計を各居室、共有場に設置、定期的に窓を開け換気を行っている、居室の温度も個人差があり希望にあわせた温度調節に努めている、湿度調節の為に除湿機、加湿器を必要に応じて使用している		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーに近く、廊下、トイレ、浴室に手すりを設置施設内で安全に生活出来るよう努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各居室に名札を掛けている、トイレ、浴室もその都度説明したり、理解が困難な方には説明、促し、誘導に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	敷地内での散歩、天気の良い日はベランダでの日光浴、お茶会(おやつ時)などを行っている		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
88	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
90	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 》①毎日ある 《 ○ 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
91	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
92	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
96	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 ○ 》②数日に1回程度 《 》③たまに 《 》④ほとんどない
97	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 ○ 》③あまり増えていない 《 》④全くない
98	○職員は、生き活きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
99	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
100	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない